

近代の尼崎の歴史は？

近代は、明治時代（1868）～終戦（1945）の期間を指します。尼崎市立地域研究史料館の「図説尼崎の歴史」には年表で次のようにまとめられています。明治維新になって西洋の文化や技術が様々に入ってきて、尼崎も大きく様変わりします。また、近代は諸外国との戦争もありました。太平洋戦争では、日本は敗戦国となって尼崎も大きな被害を受けました。近代はまさに激動の時代です。

日本史の時代区分



1869 (明治2)	6・20 尼崎藩の版籍奉還。藩主は藩知事に任命された。 12・川辺郡の政府直轄領において農民一揆が発生した。
1871 (明治4)	7・14 維新政府が廃藩置県を命令。これにより尼崎藩は尼崎県となった。
1872 (明治5)	2・10 尼崎県の兵庫県への移管が完了し、現尼崎市域全域が兵庫県の管轄となった。
1873 (明治6)	2・ 常松小学開校（学制による市内初の学校）。こののち、尼崎町や村々に小学校が設置されていった。
1874 (明治7)	5・11 官設鉄道の大阪・神戸間が開業。6月1日には神崎ステーション開設（現尼崎駅）。
1889 (明治22)	2・11 大日本帝国憲法公布、翌明治23年施行。 4・1 町村制施行。現尼崎市域に尼崎町ほか5村設置。 6・19 尼崎紡績の創設が認可された。
1891 (明治24)	この年、尼崎と伊丹を結ぶ川辺馬車鉄道開通。摂津鉄道、阪鶴鉄道を経て官設鉄道福知山線・同尼崎支線となる。
1894 (明治27)	8・1 日清戦争開戦。
1904 (明治37)	2・10 日露戦争開戦。
1905 (明治38)	4・12 阪神電鉄開業。翌明治39年5月1日、尼崎最初のストとされる阪神電鉄争議が発生。
1906 (明治39)	10・1 旧城郭内の伊丹警察署尼崎分署が、尼崎警察署に昇格した。
1907 (明治40)	9・8 旭硝子創立。本社が中在家町に置かれる。尼崎臨海部の重化学工業地帯化が本格化する先駆けとなった。

近代

1908 (明治41)	10・5 阪神電鉄が、尼崎町・大庄村など沿線町村への電灯・電力供給事業を開始した。
1916 (大正5)	4・1 尼崎町に東難波・西難波を加えて尼崎市が発足。 8・11 市長臨時代理者の櫻井忠剛が、初代市長に就任。
1918 (大正7)	この年、米騒動。8月には尼崎市と小田村で騒擾発生。 10・1 神崎水源地完成。尼崎市水道の正式給水開始。
1920 (大正9)	1・7 市立通俗図書館が宮町に開館した。 7・16 阪神急行電鉄（現阪急）神戸線・伊丹支線開通。
1922 (大正11)	4・9 旧城郭内に市役所新庁舎が完成。岡山県所在の工場事務所を購入・移築した木造建築であった。
1923 (大正12)	4・9 尼崎市立中学校開校式。昭和5年に県立となる。 6・28 竹谷新田耕地整理組合設立（尼崎初の耕地整理組合）。
1924 (大正13)	12・22 都市計画兵庫地方委員会が尼崎市ほか5村の区域（現尼崎市域）を尼崎都市計画区域と決定。
1925 (大正14)	3・東浜に日本電力尼崎火力発電所完成。こののち、尼崎臨海部には大規模火力発電所の設置が続いた。
1926 (大正15・昭和元)	12・25 阪神国道（現国道2号）開通。
1931 (昭和6)	9・18 満州事変勃発。
1933 (昭和8)	7・15 失業救済事業により兵庫県が建設した産業道路（県道尼崎・池田線）が完成した。 9・10 大日本国防婦人会尼崎支部発会式。
1934 (昭和9)	7・20 東海道線の立花駅が開設された。 9・21 室戸台風襲来。
1936 (昭和11)	4・1 尼崎市と小田村が解消合併。6月3日、有吉寛が新発足した尼崎市の市長に就任。
1937 (昭和12)	7・7 日中全面戦争開戦。 11・村野藤吾設計の大庄村役場新庁舎落成。
1940 (昭和15)	12・8 尼崎商工会議所の創立総会開催。同17日、設立が認可された。
1941 (昭和16)	4・1 国民学校令実施。各小学校在国民学校と改称。 12・8 太平洋戦争開戦。
1942 (昭和17)	2・11 尼崎市と大庄村・立花村・武庫村が合併。
1943 (昭和18)	12・政府は都市疎開実施要綱を策定。尼崎市も対象都市とされ、防火帯設置のための家屋疎開が開始された。
1944 (昭和19)	学童疎開開始。市内初等科児童の集団疎開先は川辺郡・多紀郡・氷上郡・多可郡内の学校・寺院などであった。
1945 (昭和20)	この年3月以降、尼崎市はたび重なる空襲被害を受けた。 8・15 敗戦。